

社会情勢によって好まれる歌詞は異なるのか ～東日本大震災とコロナ禍～

音楽班: 金田彩花、大橋りさ

要約

本研究は災害が起こった年、そうでない年によって好まれる曲に違いがあるのかを確かめ、人々の音楽への感じ方を明らかにすることが目的である。主にGoogleフォームで高津高校生を対象にアンケートを実施し考察した。結果として災害が起こった年は暗い歌詞が多いことがわかった。結論として、災害が起こった年に逆境を乗り越えるような歌詞が多いという仮説は当てはまらなかった。

1. はじめに

様々な物事がコロナ禍で制限される中、コロナウイルスの蔓延前と今現在のコロナ禍において、好まれる音楽のジャンルに違いが生じているのではないかと考えた。そこで、大きな災害が起こった年とそれ以前の年にヒットした曲の歌詞に込められた意味に着目した。災害が起こった年にヒットした曲に『逆境を乗り越える』テーマが多いと予想した。この研究では、歌詞の傾向を見つける為、東日本大震災の2年前の2009年、2011年、新型コロナウイルスが蔓延し始めた2年前の2018年、2020年に焦点を当てた。

2. 実験方法

《実験1》

Billboard Japanのウェブサイトから2009年、2011年、2018年、2020年のヒット曲上位25位の歌詞の意味を調べた。

《実験2》

テンポ、歌詞、映像などの何の要素によって曲を好きになるかをGoogleフォームを用いてアンケートをした。複数回答で答えてもらい、43人の回答が得られた。

《実験3》

実験2で歌詞と答えた人に、どんな歌詞を好きになりやすいかアンケートをした。

3. 結果

《実験1》

2009年と2018年は比較的明るく、前向きに感じることが出来るような歌詞が多かった。一方で2011年と2020年は比較的暗い歌詞が多かった。だが2011年は、当時流行した特定のアイドルグループの曲がランキングの大多数を占めており、あまり顕著な結果を得ることができなかった。そこで実験2を行った。

《実験2》

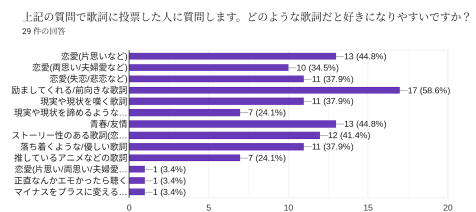
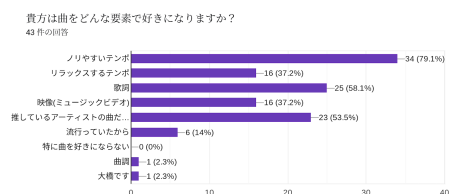
右図のようになった。

《実験3》

右図のように分散していたが、恋愛系全体の歌詞(上から3つ)の票は全体の約30%を占めていた。

4. 考察

災害がおこった年に逆境を乗り越える歌詞が含まれる曲は多くなるという仮説は当てはまらなかった。好きになる基準に一定の傾向は見られなかった。人気



ループなどの流行に左右されることが解った。

5. まとめ

実験1で明確な結果が得られず、実験2をしたことで新しい発見が出来たのは良かった。しかしアンケートの対象者が高津高校75期生だけであるため結果が一概に正しいとは言えない。今後対象層が更に広いアンケートをとれる機会があれば挑戦してみたい。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

<https://www.billboard-japan.com/>